

| | |
|--------------|---|
| 2. 事業の概要と成果 | |
| (1) 上位目標の達成度 | <p>紛争により避難と帰還を繰り返してきた東部帰還民の生計が回復し、経済的、精神的に自立して生活を送る基盤を構築した。</p> <p>25年以上続いた紛争後、最も新しく帰還した東部バティカロア県キラン郡、パディッパライ郡、ウエラウエリ郡において所得の最も低い6地区9村の248世帯の生計が向上し、コミュニティの連帯感が高まった。これにより、経済的・精神的な自立を取り戻すことができた。</p> <p>また、各人の精神的・経済的自立はコミュニティ内での相互の支えがあつてこそ成り立つものであるという点から、グループや住民組織を通して活動したことで、紛争により離合集散を繰り返してきた帰還民がコミュニティとしての絆の強化を促し、持続可能な発展への足がかりをつくった。結果として、紛争の被害にあつた地域を安定させ、帰還民の将来への不安や不満を取り除くことで、平和の定着に貢献した。</p> |
| (2) 事業内容 | <p>本事業はバティカロア県内で2006年から2007年の紛争により国内避難民となった人々が帰還した地域のうち、キラン郡、パディッパライ郡、ウエラウエリ郡内の6地区にて、十分な復興支援を受けられず、所得が低い(月収800~1200ルピー)帰還民を対象に以下の活動を実施した。</p> <p>1. 農業給水支援</p> <p>(1) 農業用井戸31基の建設</p> <p>(2) 給水ポンプおよび配水ホースの供与</p> <p>2. 井戸管理委員会の立ち上げと同委員会に対する研修</p> <p>(1) 組織強化のためのワークショップ</p> <p>(2) 野菜の種と多年生植物の苗の供与</p> |
| (3) 達成された効果 | <p>1. 農業給水支援</p> <p>31基の農業用井戸の建設を通し、対象地域3郡6地区248世帯の農業従事者が農業用水に1年を通してアクセスできるようになった。これまでは、雨季の冬と春の時期に天水に頼って2回畑作を行ってきたが、農業用井戸により農閑期である春先、夏、秋にも収穫が可能となった。</p> <p>現地モニタリングでは2012年12月時点で、事業開始前と比較して事業対象地の平均収穫量は約4倍(17kgから69kg)、平均月収は約2倍(2385ルピーから5350ルピー)となり、スリランカの貧困ライン(申請時)約3000ルピーを超えたことが確認できた。また、井戸周辺の地区住民(735世帯)も間接的に裨益しており、井戸の使用を確認している。</p> <p>2. 井戸管理委員会の立ち上げと研修</p> <p>井戸1基につき8世帯から構成される井戸管理委員会を形成し、コミュニティ強化ワークショップや農業研修を実施した。グループ活動を促進することで帰還民コミュニティの連帯感が醸成され、事業終了後も井戸管理委員会が井戸の維持管理を行う基盤が形成された。</p> <p>住民は農業研修での学びを活用し、コンポストや肥料を用いた農作業を実施することで収穫量、収入ともに増加している。</p> |

| | |
|------------------|--|
| <p>(4) 持続発展性</p> | <p>井戸ごとに管理委員会を形成した。ワークショップにより、この委員会が事業終了後も自主的に井戸を維持管理できるよう、委員会ごとに共同で井戸や給水ポンプを使用するルールを策定し、運用している。井戸が長期的に使用されると同時に、住民組織としても継続的に活動することが見込まれる。</p> <p>また、コミュニティ強化の過程で、各地区内からコミュニティワーカーを選定し、現地人材育成も行った。コミュニティワーカーは井戸管理委員会と協力して、現地行政機関とのネットワークも持つため、今後の調整役となる。</p> <p>農業研修では県農業局職員を講師として招いており、研修終了後も住民が農業に関連する相談を行えるよう、連携している。</p> |
|------------------|--|